

K120.73

8

1

音學專門家藤加精一郎編纂
增訂小學

開發歌唱集

上卷

山形市有斐堂發兌

增訂小學開發歌唱集

緒言

予音樂ノ技ヲ好ミ從事スル一多年
而ノ音樂專門家ノ教授ヲ受ケ少シ
ク得所アリ是ヲ以テ小學生徒ニ試
ミシニ其ノ教授ノ至難ナルヲ覺
知ス故ニ種々様々ノ法ヲ設ケ以テ
經驗シ遂ニ三個ノ方法アルヲ發
見セリ其第一ノ方法ハ小學生徒ハ
學級ニヨリ年齡ニ長少アリ随テ其
發音ニ大小ノ差異アリ故ニ各生徒
ノ發音ヲ聽分シ此ノ唱歌ハ何調ナ

藤加門專樂
精一編纂
增訂小學

開發歌唱集

卷上

山形市有斐堂發兌

增訂小學開發歌唱集

緒言



予音樂ノ技ヲ好ミ從事スル一多年
而ノ音樂專門家ノ教授ヲ受ケ少シ
ク得所アリ是ヲ以テ小學生徒ニ試
ミ其ノ教授ノ至難ナルヲ覺
知ス故ニ種々様々ノ法ヲ設テ以テ
経験ニ逐テ三個ノ方法アルヲ發
見スリ其ノ第一ノ方法ハ小學生徒ハ
學級ニヨリ年齡ニ長少アリ随テ其
發音ニ大小ノ差異アリ故ニ各生徒
ノ發音ヲ聽分シ此ノ唱歌ハ何調ナ

レ氏此ノ小兒ニハ何程調子ヲ高低
スレバ相當ナルヤヲ考ヘ能ク其音
度ヲ計リ生徒ヲ成ルベク發音ニ
苦シマシメザル様ニ授ケザレバ壺
ニ勞シテ功ナキノミナラズ徒ニ生
徒ヲ苦マシムルニ過キス故ニ最モ
注意スヘキハ此第一ノ方法トス次
ニ第二ノ方法ハ生徒ニ適セザル高
尚ノ歌曲或ハ不適當ナル長短ノ歌
曲ヲ以テ授ケルルハ其ノ生徒歌文
ノ意味ヲ解セス是ヲ以テ授ケルニ
當リ豫メ其ノ生徒ノ會得シ得ラル

ル歌文ヲ撰マザルベカラズ或ハ上
級ノ生徒ニ授ケルニ至リテハ能ク
其ノ歌文ヲ説明シ生徒ニ略ホ會得
セシメ然ル後教師面白ク其唱歌ヲ
謡ヒ聞カシメバ生徒皆感情ヲ起シ
歡シテ會得スルヲ見ルニ至ル斯ノ
如クセザレハ唱歌ノ德育ノ功ヲ收
ムルヲ能ハザルナリ次ニ第三ノ方
法ハ音樂教授ノ時教師モ亦生徒ト
同一ノ心ヲ起シテ共ニ唱歌ヲ樂ミ
授ケザレバ所謂ウハノ空ニテ生徒
ニ感ズルヲ薄ク故ニ生徒ノ會得ス

ル亦遅緩ナリ又文字ヲ讀ミ得ザル
小兒ニハ初ヨリ歌ヲ以テ教ヘザル
ヘカラズト雖凡苟モ文字ヲ讀ミ得
ル生徒ニハ樂譜ヲ授ケザルベカラ
ズ是尤モ必要トス樂譜ハ數字ニ略
シ教盤ニ階名ヲ記シ反覆丁寧之ヲ
説明シ覺知セシムルヲ法トス進ン
テ高等生ニ授クルニハ音譜ノ掛圖
ヲ以テスルヲ適當トス前述ノ方法
ニヨリ樂譜諸記號ノ要略等ヲ教授
スルヲ可トス爰ニ最モ注意スベキ
ハ生徒ニ男女ノ性質ニ因リテ好ム

ト好マザルトノ歌曲アリ故ニ男兒
ノ好ム所ニシテ女子ノ好マザルモ
ノアリ又女子ノ好ム所ニシテ男兒
ノ好マザルモノアルハ能ク其ノ好
否ヲ察知シ敢テ其好マザルモノヲ
授クベカラズ此等ハ教授スルモノ
自然ノ經驗ニテ知覺スルコトアルベ
シ夫レ唱歌ノ教育タルヤ天然ノ音
聲ヲ發育シ語音ノ訛誤ヲ正スヲ主
トシ決シテ生徒ノ發音ニ苦シマシ
メズシテ怡愉ノ意ヲ暢達セシムル
ハ是レ音樂的ノ尤モ必要ノ教授法

トナス所以ナリ然リト雖凡各府縣
風土人情ノ差異アルニ依リ聲音モ
亦習慣ノ弊ナキヲ免レズ是故ニ教
授ノ方法モ亦随テ困難ナキコト能
ハズ是則チ精一郎ガ謫劣ヲ顧ミズ
諸君ノ帶ヲ辞セズシテ蒸調ヲ編集
シ参考ニ供セント欲スル所以ナリ

明治二十三年
三月 日 加藤精一郎述

増訂開發唱歌集上卷

目次

- 第一 ひととさほ
- 第二 佐むめ
- 第三 たふ
- 第四 春にいき
- 第五 学心のこと
- 第六 朝日たそ
- 第七 人形ねむ

第八 新年

第九 学べよまゝへ

第十 知たれまゝへ

第十一 四方ふかぐやく

第十二 友ども知たを

第十三 若ぎくくら

第十四 あぢぢばり

第十五 かをる梅

第十六 をしん草

第十七 國民

第十八 万葉のうた

第十九 親睦にうた

第二十 親睦に賜をの

以上

第一 夕やけな海

モクシも	サヤキよ	サハオの	ハミクセ	ハアトカ	モハニも	マシトイ	サノコ	トササ	トアア	1 2 3 4
ムクルよ	シスス	クマビ	ツミミ	イオヨ	リイナ	スキミ	サオフ	デにノ	ナサハ	ミカシ
ヨサス	サマラ	ミヒシ	したラ	ウナナ	ノセテ	ナタメ	フー	ユウツ	サヘマ	サヘマ

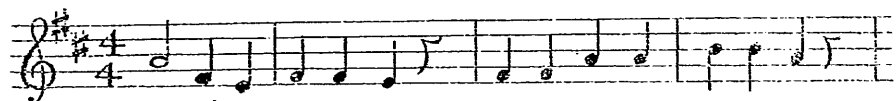
第一 夕やけな海

一 夕やけな海も。母やと海も。かみな
でけすり。いづくも。朝な
夕あり。うれーさよ。

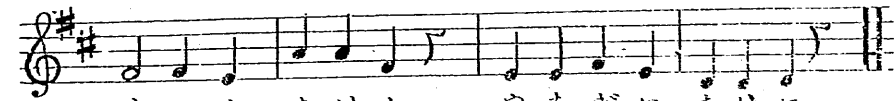
二 私ーは。あさはやく。あ
ぢりおれて。おとなーと。
をーのうたを。うたひまじ。

三 朝ごころ。やとおれて。を
のあみまよみまする。たゆ
まをほこめて。なまひまじ。

四 あめり目せ。かせの夜も。いと
はずさげめや。むじくよ
学まなぶのまごれ。ねもーちや。



へりべへ
そバそク
あじあウ
くすなモ
よとみド
かガかモ
なウみト
めヨべへ
ずヶそク
すナ何ウ
めヨべへ
げヶそク
つナあウ
1 2 3 4



にニにニ
けラのマ
たツそマ
にきくノ
ぎヶさへ
なドめシ
やノウラ
よカべへ
けモそロ
なクあソ
よカくミ
一ミよナ
まカナア

第二片だめ

第二片だめ

一 片だめすぐめ。なりよとく
あそべ。まへとあけよ。柳ヤナギ
り竹タケり。

二 なげよなれと。管ケツををり。
のんみり雲クモの。のどけさ
そりり。

三 梅ウメべあそべ。みあしくあそ
べ。なあよとあそ。梅ウメさこく
そりり。

四 うたへうたへ。がせくく
うたへ。あーなみそちへ。
教シラシ（はまきり）。

第三 たこ

1	か	ぜ	よ	ふ	け	ふ	け	た	こ	あ	の	れ
2	ア	か	し	ア	ヨ	し	ヨ	ド	コ	マ	テ	モ
3	ふ	け	ふ	ふ	け	し	ヨ	か	セ	マ	け	よ
4	マ	ハ	レ	マ	ヨ	レ	ヨ	ヨ	ク	マ	ハ	レ

み	あ	ミ	な	こ	こ	ま	で	き	て	あ	そ	べ
く	も	マ	ニ	ア	か	し	ヨ	ウ	ノ	が	タ	コ
は	ろ	か	ゼ	ふ	ハ	レ	ヨ	タ	エ	マ	タ	ク
ミ	ゴ	ト	ニ	マ	ハ	レ	ヨ	カ	サ	ク	ル	マ

第三 たこ

一 風よふけく。たまあが
 き。あきくまで。たて
 あとべ。

二 あがれくよ。とあまでも。
 ちまひあられよ。おの
 のあふ。

三 ふけよふけく。かぜふ
 ちよ。春のせふけよ。たえ
 まなと。

四 まはれくよ。さくほえ
 き。あきくまで。たて
 かぎ(車)。

第四 春のにき

はるのにしきや やまざどに
 アキハチグサノ ノベノハナ

みやこもはな の なぎくり
 サユル ツキヨノ カリノコエ

なつはあ やめ の いろくらべ
 フユハサガメン カムロノウ

やまほととぎす なきわたる
 ヒカリチソギフル マドノウキ

第四 春のにき

一 春に—まや山里も。
 都も花乃。をなごのり。
 妻ハあやめれいろと
 らべ。山ほととぎすな
 きあゝる。秋も千草
 乃野邊のをあ。けゆ
 海原夜乃原にこゑ。
 冬もさざんむろ梅。
 光りをそふるまどに雪。

第五 まなぶのまじり

るに
 家ハも
 いハと
 不手ろ
 礼子も
 のきて
 まつみ
 みアは
 のノび
 びケ存
 なサ一
 まナ
 一
 ちノや
 し一
 きかま
 のミと
 ひアだ
 ひタま
 かへし
 リニひ
 もサひ
 ろイか
 びハる
 こヒま
 のにテで
 のモズ
 みマら
 ぎノた
 ほキニ
 木ト木
 しレと
 ひカち
 ま一
 たナみ
 けルの
 づルへ
 さワせ
 のよヨめ
 なトた
 るビの
 ナトみ
 わじき
 せヨめ
 みメた
 めハよ
 めハよ
 きビけ
 カナが
 ヤマみ

第五 学びのみぢり

一 学まなぶをまなぶ孔くわう道だうのの木き不ふ以いあるあるぢり
 二 光ひかりりり徳とく人ひと。けけづづけたたまま
 ひひ一いったたのの深ふかきき恵めぐみをを忘わするるななよ。
 二 ななささけけれれああつつまま。父ちち母はは乃の恵めぐみくくああた
 へへ。ままわわひひををああすするるああらられれ時ときの
 三 学まなぶびびままげげみみてて。徳とくととももりり日ひ本ほん
 だだまま一いっひひ光ひかりるるままでで。教しよ育いく道だうをを
 おおああたただだににままげげ世よににああららるる君きみののたためめ。

第六 あやとひのたと



7 あ さ ひ の み ほ た か ざ る さ ン セ シ ヲ マ シ ノ モ ロ ビ ト ハ
 た て あ ふ げ や み め ぐ み ぎ の ヲ コ ト ブ キ ヒ ノ マ ル キ ノ
 き く の さ ろ づ き と り ぶ り に き ハ ヲ フ タ テ テ イ ハ フ ラ ン
 く み て い は は ん き み の ち ヲ マ セ ヤ チ の よ マ の せ

第六 朝日此棋

一 朝日此棋かどおとりたて
 あふげやみめぐも。氣あり
 盃きどりし。おとみて
 いたはん君の代を。
 二 三千餘万此棋人は。所代哉
 こともあまの地此棋をたて
 てつけあらん。君ハちよ
 ませやちよはせ。

第八 さんねん

1
4

1クルトシゴトニアラタナ
2みヤこもひあもたしあへて

ミツホノクニチオホギミ
としたつかへりあらたまの

テラスヒカリノカトゴトニ
としのせあかかくきみあよせ

クマナクテルゾタフトカ
いマハはけふルこそたのしけ
ル

第八 新年

一 来る年と一とふあたらなる。
みづ穂花園を大きみの。
てらす栄うのかどいど年。
くまなりてほぞたふどかる。
二 ともいひあも木へあべて。
年をうりあたらたまた。
と一のとをこのくあひ代を。
いはふらふこきたのールれ。

第九

ほまへまあへ

てメにニ
 きスのべ
 おスそノ
 くクくニ
 とトさベ
 さリふマ
 あトはヤ
 よテよス
 べへレタ
 なーロタワ
 よーまソキミ
 べーミナレ
 ぶーミナレ
 まーミナレ
 7
 2
 3
 4

をへにヨ
 ちタはキ
 みウにツ
 のモるク
 へドるユ
 シモをエ
 をトカサ
 よテめテ
 めシラセ
 げラくカ
 はナさま
 よミるニ
 めアたら
 げシきコ
 はアさコ

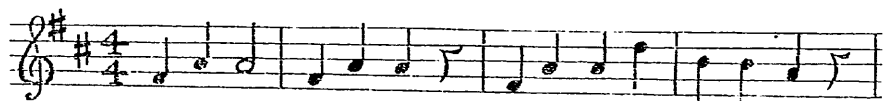
第九 学(よま)ま(ま)

一 学(よま)ま(ま)あ(ま)。あ(ま)さ(ま)く
 お(ま)き(ま)て。は(ま)げ(ま)め(ま)を(ま)け(ま)よ
 を(ま)ー(ま)の(ま)道(ま)を(ま)。

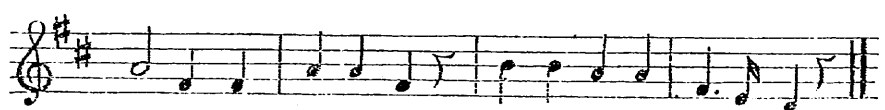
二 み(ま)ま(ま)く(ま)そ(ま)ろ(ま)へ(ま)て(ま)く(ま)く(ま)
 街(ま)め。何(ま)ーふ(ま)み(ま)あ(ま)ら(ま)て(ま)。
 や(ま)ら(ま)も(ま)ど(ま)ど(ま)う(ま)た(ま)。

三 い(ま)い(ま)く(ま)ま(ま)ま(ま)よ(ま)花(ま)さ(ま)く(ま)
 その(ま)小(ま)を(ま)花(ま)く(ま)る(ま)機(ま)の(ま)か(ま)を(ま)
 る(ま)る(ま)に(ま)ま(ま)。

四 何(ま)ま(ま)く(ま)見(ま)渡(ま)る(ま)山(ま)香(ま)に(ま)
 野(ま)を(ま)通(ま)す。ま(ま)く(ま)路(ま)小(ま)は(ま)か(ま)せ(ま)て(ま)。
 さ(ま)え(ま)の(ま)く(ま)月(ま)ま(ま)。



れへめ
たロキ
きソキ
なズ
ミテ
みエ
み夕
お



しし
はハ
カカ
チキ
ウツ
り子
まハ
ベニ
そハ
おニ
ベツ
ソハ
あハ
ま

第十 春をきたれ

第十 春をきたれ

一 きたまき〜みあ〜

起〜れ。魁〜あそ〜

まり〜ちかは〜

二 そろへ〜。たゆまず

そろ〜春たつ庭に。ねね

川流かは〜

三 遊め〜。おとこす

す〜め。学能庭乃。旗

とちかは〜

第十一 ともたからん



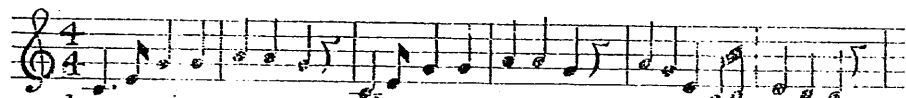
第 十一 四方小輝く

一 四方小輝く日影もとの國の
 みけりのおほづちと。そ一花
 立一君が代と。あふぐらふ
 こまたのーけれ。

二 白雲の国の日影外國
 までも輝て。光りこもたさ
 君の世代。あふぐらふこと
 たのーけれ。

三 みづ穂る國は大君は。榮
 ゆく世代のうごまはく。あさ
 人草もうちあびや。あふぐ
 らふことたのーけれ。

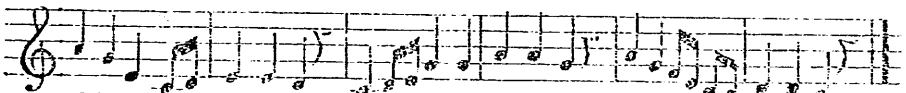
第十二 ともどちきたれ



1 ともどちきたれ ともどちきたれ われらのこもよ
2 ヒトビトキタレ ヒトビトキタレ イザモロトモニ



とくとくきたれ いぎもろーとものに やまへののべに
アシトクキタレ オトコモキタレ オミナモキタレ



てどひきーつどひ あそびてうたへ うたへーあそべ
マナビノニハノ ラシへノウタヲ イナドニウタへ

第十二 友どちきたま

一 友どちきたま(ま)とどちきたま

たあれどく〜きたれ。

いぎもろ(ま)山(ま)小(ま)小。

あそびつと(ま)遊(ま)ひてうた

へうたひてあそび。

二人(ま)とあそび(ま)いぎもろ(ま)。

いぎもろ(ま)あそび(ま)。

あそび(ま)男(ま)もた(ま)たれ(ま)女(ま)もあそび(ま)。

あそび(ま)の(ま)あそび(ま)あそび(ま)。

いぎもろ(ま)あそび(ま)。

1 そらも のどけき はるのひ や
 ヒロキ ソノフニ ヲエナキ シ
 わかたの さくらこのふろは
 ハナサケ トキト ハナリニケリ

第十三 ちのさくら

第十三 若さくら

一 そらも のどけき まれ 甲や。
 心ろきそのふろに おおれ。
 若本れさくらほろろひそ。
 花さく時はありふり。

第十四 あげむわり

1 カ ス ミ ニ キー ル ア グ ジー バー リ
2 の ど け き はー ら の き み ぶ よー は

カ ス カ ニ カー フ フ エ 子 ち
や な き の いー ご も み だ れー とー く

ト フ ク ミ ラ プ ル コ ト ノー 可ー 花
か ぜ の ま に ま に ま ひ あー そー び

ラ リ マ ル ミ ヨ フ ト ー カー ナ
ラ た マ ー こー り も もー しー よー く

第十四 あげむわり

一 翫^{かす}有りきけるあげむわりかす
 の小かよふふえの音もさ遠く
 去りぬる琴の音も詰まる
 世れけしきりあ。
 二 此どけきまを君の代に柳の
 いどのみだきあく風れまに
 ほふ辞あそびうたふこぞ
 りも子代くど。



1はる-たつには-の-かさ-るる-うまの
2マナ-ビノ-ニハ-ノ-シガ-レル-ハナノ
こナ-名をたづ-ねてふく-とリ-さへも
カコ-リハワガ-ミノヒカ-リト-ナリス
わが-さふいは-ひてちよろづ-まで-こ
ケニ-チヒラフ-シテナリコソ-アゲ-コ
さか-ゆるみよ-を-とも-ども-うたへ
ハナ-ノ-カホ-リガリス-ルナ-トモ

第十五 春をるる梅

第十五 春をるる梅

一 春をるる梅

のまはるる梅

さ(も)我君いまひて子代

あままでとよこのゆるか代を

ともぐくうたへ

二 春をるる梅

かをるる梅

ありぬ國をもてりて名

とこそあげよ花のかほりを

あするあともい。

第十六巻一(八)

第十六巻一(八)

一志はれよーげんがな〜
 忍ぶけひらもやまー(ぐさ)
 君乃めぐとれあめつゆおまひ
 のまあはあをるまなり。
 二 神邊に子あいら〜お色も
 大がへす。さやまをた。あはは
 きよまかみなり。おするあ
 人さ。おこたるあ。
 三 さ〜れまあはあえはあく。
 ともおまなをて。おこたす。
 意れあぐまのきげることあ名
 をせよふ深えさる

第十七 國民

第十七 國民

フツレハニホニノコグミンノ
 ニつとめよますらぜもろどもに
 シーセンマシヨノウチゾカシ
 わか木ほぎ一みのたため
 ヤマトゴコロノイリホシク
 くーにのひかりをのざりあ
 スメラミクニチマモルベシ
 とつくにまーてもかかやのせ

第十七 國民

一 我らは日本此國とんれ。
 四千萬とのうちぞあり。
 日神おろちれいとなく。
 皇と神國をほもるべし。
 二 法とめよますらを法に。
 我大君れたんためや。
 國のむろりを限りなく。
 外國までもとがやかせ。

第十八番 せんげいのうた



7キ ミー が ヨ ハ チヨニヤチ
2き み。ー の よ は ちひろのー

ヨそ こ の さきー ざ し い シ

ノの イハホ ト ナリテ

コー ケー ノー ゐんー マー デー
あー らー はー ゐんー まー ー ー

第十八番 せんげいのうた

一 君のよは。ちよにやちと。

さざれいーれ。いとと

ありて。まけれむはまで。

二 君の代は。ちよちれをこの

さざれいーれ。うのある

いと。あははるは。

第十九 親睦のうた

7いりちの いとを あつむるさくらぐと むあしの
 2イロイロ ミヅハ ウツハニシタカヒ テ ソノサマ

いどの いひをけ る ひらくる みよのたのしまは
 サマニ ナリヌベシ ヒートハ マジハルトモニヨリ

どもに まふびやあぶく の ひありのどけきますらを
 ヨキニ アシキニウツルナリ オノレニ マーサルヨキトモ

が あつまりつどふけふのまど こころのまこと
 ヲ エーラビモトメテモロトモ ニ ココロノコマニ

あきらかに たがへに てらせ てふの クレシ
 ムチウチテ マナビノ ミチニ ススヌ モロ

第十九 親睦のうた

いろいろのくをあつむる櫛ぞや。
 むろーけいとこのいひをける。衆る
 世代のたのーさは。とをす。学を
 てあぶの々に。此。光りのどけき
 ます。す。らが。あつ。まり。川。ど。い
 今。日。の。ま。ど。ふ。の。あ。ぶ。く。の。お
 た。が。ひ。り。て。せ。せ。ま。ふ。此
 に。き。こ。ぞ。

二いち〜。此。あ。は。つ。は。ふ。た。が。ひ
 て。其。ま。ま。を。あ。ぶ。り。あ。り。ぬ。へ。
 人はまーはるなふより。よ。い。こ
 にあーきに。づ。つ。る。ま。り。
 おのまにまよる。ま。ま。の。ま。も。と。
 え。い。も。を。め。て。も。あ。ぶ。く。の。ま。ど。
 あ。く。は。れ。け。し。む。む。ら。う。ち。て。学。び
 の。た。ふ。せ。め。を。あ。び。と。

Fourth system of musical notation in 4/4 time, featuring a treble clef and a key signature of one flat. The lyrics are written below the notes.

ツクセヨ ツクセヒトビトヨ
 ウカミハオヤノタマモノソ
 ココロハカミノタマモノソ
 ナシキハマナヒノタマモノソ

第二十 おやのたまもれ

第二十一 親のたまもれ

一 泣きせよ川くせひと
 びとま。わづみはたや
 のたまもれぞ。あころは
 かまのたまもれぞ。あま
 きはまもれぞのたほもれぞ。

明治二十三年六月一日印
二十五年五月十六日印
二十五年六月二十日增訂再版

定價金錢壹

著作者 加藤精一郎

發行者 五十嵐太右衛門

印刷者兼賣弘所 內田老鶴圃

宇都宮	內田支店	紙屋五郎平
內山港三郎	栃木	葉儀右衛門
佐藤靜雄	永樂屋吉造	稻葉重造
田中屋忠平	城山新開店	永樂屋吉造
萬地屋忠平	文島三泉堂	川島三泉堂
築地屋忠平	相田七郎次	相田七郎次
手塚祐二	直江米吉	直江米吉
篠崎吉藏	小田山	小田山
高水正吉	大田山	大田山
北村平一	村野尚三郎	村野尚三郎
野崎精一	金子喜一郎	金子喜一郎
木村源太	堀田貞一郎	堀田貞一郎
堀越書店	堀越書店	堀越書店
野沼	野沼	野沼
佐野	佐野	佐野
鹿野	鹿野	鹿野
全	全	全

